



第7代学長
山下一夫



第8代学長(候補)
佐古 秀一

創立40周年を迎えました

鳴門教育大学は、2021(令和3)年10月1日をもって、創立40周年を迎えることができました。これもひとえに、実に多くの方々や関係諸機関からの温かいご支援の賜物です。厚くお礼申し上げます。

第3期中期目標期間中(2016年4月～2022年3月)、山下一夫学長は「子どもの心と大人の知恵を大切にし、ともに学ぼう」と常々述べています。また、教職員に対し「本学は教師教育のリーダー大学であり、その自覚と誇りを持つ。教育現場や教育行政のニーズにマッチした先導的教育研究を行おう」と訴え、改革を推し進め、様々な特長・特色のある大学へと導きました。

第4期中期目標期間が始まる、この4月1日には、佐古秀一理事・副学長が文部科学大臣の任命を受け、第8代学長に就任します。「主体的に学ぶ教師を育て、支援していくことが重要な課題。教師教育のトップランナーとして改革を推進したい」と抱負を述べています。

これからもご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

佐古秀一(さこひでかず)略歴。1953(昭和28)年5月生まれ。1976年3月大阪大学人間科学部卒業。1982年4月同大学助手。1988年4月鳴門教育大学助手。以降、同助教授、教授、理事・副学長。2018年6月～2021年6月日本教育経営学会会長。



「なる★ワン」
(Naru ★ One)

公式マスコットキャラクター「なる★ワン」誕生

40周年記念事業として一般公募し、応募総数253点の中から八谷早希子氏の作品が最優秀賞に選ばれました。内藤隆教授が少し手を加え、「なる★ワン」「Naru ★ One」が誕生しました。

本学出身の福岡晃子さん(チャットモンチー済)がデザインし、初代の広報キャラクターとして活躍した「なるモンくん」から、マスコットキャラクターを引き継ぎました。

皆さん、「なる★ワン」を可愛がってね!



なるモンくん

大塚国際美術館を表敬訪問



(左から) 美馬持仁理事, 佐古秀一理事, 大石雅章理事, 山下一夫学長, 大塚一郎館長, 山本朝彦特命教授 (大塚美術財団評議員), 田中秋彦常務理事, 浅井智誉子学芸部部长 (本学外部評価委員会委員)

2021 (令和 3) 年 8 月 4 日 (水), 大塚国際美術館の大塚一郎館長 (大塚ホールディングス代表取締役会長) を山下一夫学長が表敬訪問しました。新型コロナ禍のため創立40周年記念式典および祝賀会を中止することをお伝えするとともに, 地域貢献や教育研究の推進などについて意見交換を行いました。その後, 館内を案内していただき, 美術談義に花を咲かせました。

発達臨床センター開設記念シンポジウム「発達障がいといじめ」



発達臨床センターは, 発達の多様性に応じるための教員の専門性を向上させること, 及び発達支援に係る地域支援により, 持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に寄与することを目的とし, 2021年4月に開設されました。

同年9月23日 (木・祝), センター開所式とセンター開設記念シンポジウムを執り行いました。榊浩一徳島県教育長をお招きし, 小倉正義センター所長, 伊藤弘道教授, 大谷博俊教授, 山下学長, 大石理事, 佐古理事, 美馬理事が出席しました。



発達臨床センター開所式

このシンポジウムは, 創立40周年記念事業の一つでもあり, 「発達障がいといじめ」をテーマとしてオンライン配信により行われ, 400名以上が参加しました。

小倉センター所長, 大久保賢一畿央大学教授, 久保順也宮城教育大学准教授の講演などの後, 池田誠喜本学いじめ防止支援機構長も加わり討論が行われました。また, 「ポジティブな行動支援」に関し徳島県内の学校の取組についても取り上げられました。

創立40周年記念特別シンポジウム「明日のための“防災教育”を考える」



11月3日 (水・祝), 創立40周年記念特別シンポジウム「明日のための“防災教育”を考える — 教師として, 社会人として “できること” “すべきこと” —」が開催されました。

オンライン配信も用い, 午前中はパネルディスカッション, 午後にはワークショップを行いました。他人事ではなく, 自分自身がどのように行動すればよいのかを考える, 非常に密度の濃い一日となりました。

藤村裕一教授, 阪根健二特命教授, 谷村千絵准教授が中心となって企画しました。森本晋也文部科学省安全教育調査官, 菊池のどか株式会社 8 kurasu 防災教育推進担当をはじめ, 各地から多くの方にパネリストや討論者として関わっていただきました。参加者は, 教育関係者や学生だけでなく, 徳島県議会議員, 地域の方々など, 160名を数えました。

阪神・淡路大震災 (1995年1月17日), 東日本大震災 (2011年3月11日) などの被災体験を基に, 命と心を守る防災教育, 復興教育, フェーズフリー, 人権, 避難所での子ども達への対応など, 様々なテーマが取り上げられ, 例えば, 「科学的知見に基づき, 発災後に求められる諸能力を平時に育成しておく教育」「発災後, 児童生徒の命と地域住民の命を守るとともに, いち早く学びを再開・保障する, 学校・教育委員会のBCP (事業継続計画) や復興教育」について活発な話し合いが行われました。



パネルディスカッション

秋の叙勲 丸林英俊 名誉教授、橋本泰幸 名誉教授



丸林英俊名誉教授



橋本泰幸名誉教授

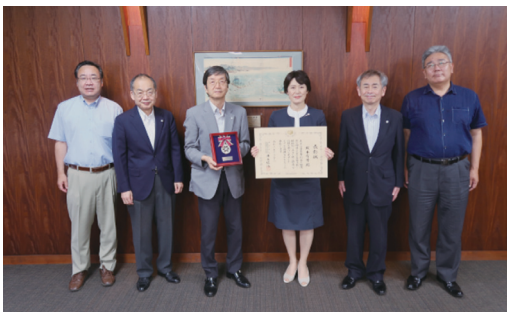
2021(令和3)年11月3日(水・祝)^{まるぼやしひでとし}
^{はしもとひろゆき}丸林英俊名誉教授及び橋本泰幸名誉教授が、瑞宝中綬章を受章されました。

丸林先生(代数学)は、1986(昭和61)年4月に着任し、2007(平成19)年3月まで、橋本先生(美術科教育学)は、1993年(平成5)年4月に着任し、2008(平成20)年3月まで、本学の教育・研究の発展に貢献されました。

山下学長から両先生に勲章が手渡され、本学での思い出や近況について話が弾みました。

この度の受章、誠にありがとうございます。

坂本有芳准教授が内閣府特命大臣表彰を受賞



本学で受賞の報告をする坂本准教授

2021年6月30日(水)、^{ゆか}坂本有芳准教授(家庭科教育コース)が、首相官邸で行われた消費者支援功労者表彰式において、内閣府特命担当大臣表彰を授与されました。

坂本先生は、消費者庁客員主任研究官を務め、消費者教育の専門家として徳島県内外の消費者教育の推進に尽力すると共に、2019(令和元)年度にG20国際会合にパネリストとして参加し、若年者の消費者教育をテーマに報告するなど、徳島県国際連携ネットワークのメンバーとして、デジタル化や国際視点で徳島県の消費者教育を推進したことなどが高く評価されました。

鳴門教育大学優秀教員表彰式・特別表彰式を挙行

10月1日(金)、2021(令和3)年度鳴門教育大学優秀教員表彰式及び特別表彰式を行いました。

優秀教員(ベストティーチャー賞)

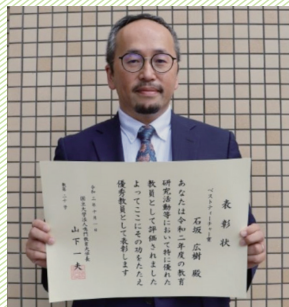


ふじむら ゆういち
藤村 裕一 教授

学習指導力・ICT教育実践力開発コース

遠隔教育プログラム推進室長として、働きながら学ぶことを希望する全国の現職教員等に学習の機会を提供し、数多くの大学院生を指導してきた。まさに、本学の遠隔教育の礎を築いた。

また、教育の情報化に関する政府・文部科学省等の委員会の座長や委員を務めるとともに、各自治体や教育委員会等に対し助言を行うなど、先進的で幅広い活動業績を評価。



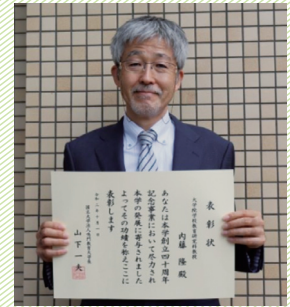
いしざか ひろき
石坂 広樹 准教授

グローバル教育コース

数多くの本学外国人留学生および海外での活躍を希望する学生を指導している。また、コロナ禍においてオンラインと対面との双方での授業実施体制、連絡体制、オンラインチューター制度など、学生のスムーズな学習・研究を可能とする体制をいち早く確立した。

さらに、教員教育国際協力センター教員として、海外の大学との交流協定締結などに貢献したことを評価。

特別表彰



ないとう たかし
内藤 隆 教授

美術科教育コース

デザインを専門としており、学生教育だけでなく、本学の出版物や掲示物に積極的に関与している。

特に今年度は、「創立40周年記念誌」の表紙を制作するとともに、本学公式マスコットキャラクターである「なる★ワン」を完成させ、その実用化に際し数多くのバリエーションを制作した。

また、教育研究評議会評議員として大学運営にも貢献したことを評価。

JICAと連携協定を締結



北岡理事長と山下学長

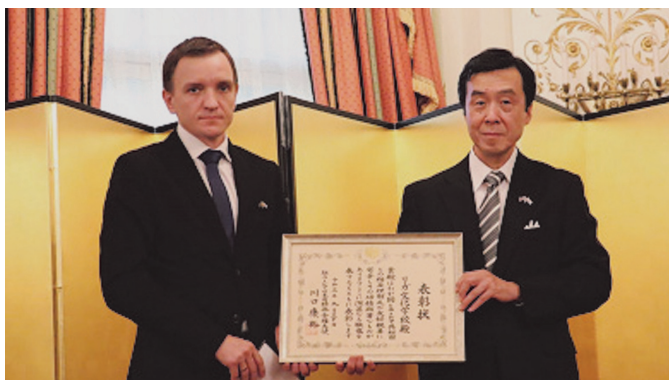
2021年6月9日(水)、本学は国際協力機構(JICA)と開発途上地域における教育分野等の国際教育に係る連携協定を締結しました。JICAが大学と締結する協定としては23番目であり、教員養成系大学では初めて、さらに四国地域の大学としても初めてです。

本学の取組に対して、JICAの高い評価と期待の表れであると大変光栄に思います。締結式はオンラインで行われ、JICA本部の北岡伸一理事長、JICA四国センターの小林秀弥所長が出席されました。

本学は、1998(平成10)年11月30日~12月10日、南アフリカ共和国からJICA研修員を受け入れて以来、JICAと協力して、開発途上国の教育力向上に取り組み、これまでに63か国から、1,200名近いJICA研修員を受け入れるとともに、開発途上国の教育現場の調査やJICA研修員が帰国した後のフォローアップを実施してきました。

今回の協定は、開発途上地域への国際協力事業の質の向上及び教育分野等での開発の促進、国際貢献、学術研究及び教育の発展に寄与し、ひいては開発途上地域における質の高い教育に貢献することを目的としています。

「日本ラトビア友好100周年」と鳴門教育大学



マルティンシュ氏と川口ラトビア大使

2021年に「日本ラトビア友好100周年」を迎えたことを踏まえ、9月30日(木)、ラトビアの大使公邸において、音楽・文学・スポーツ・教育分野における功績者3名及び団体1名への在外公館長表彰式が執り行われました。

教育分野の受賞者であるリガ文化学校は、ラトビアで日本語教育を行っている唯一の初等・中等教育機関であり、副校長のマルティンシュ・ベルズィンシュ氏(Mr. Martins Berzins)は、本学大学院の教員研修留学生(2009-2011年、指導教員:石村雅雄教授)でした。

同校を代表してマルティンシュ氏が表彰を受けるにあたり、山下学長からお祝いのメッセージを送らせていただきました。

また、川口康裕ラトビア大使は、消費者庁次長を務めておられたとき、本学の消費者教育推進のため、特別講師として講演をしていただいたことがあります。(鳴教かわら版No.7, No.12に掲載)

本学は、これからも人と人との交流、国と国との交流を大切に、グローバル教員養成および国際教育協力に力を注いでまいります。

大学公式マスコットキャラクター「なる★ワン」使用のお願い



新たに誕生した「なる★ワン」を、本学の教職員・学生が「教育・研究、課外活動、広報活動」で使用する場合、申請なしで使用できます。

研究発表会や部活動、セミナーなどで積極的に使用していただけることを期待しています!

なお、使用後は入試課広報係(本部棟1階、ギャラリー前)へお知らせ下さい。

学生のみなさんと一緒に成長していきたいです!
たくさん勉強し、いろいろ経験し、
ぜったいに先生になるぞ~!

